

## Part 3

### 幸福・富を願う ―福神絵―

Nishiki-e featuring gods of good fortune

ここでは幸福をもたらすとして信仰されてきた福神を描いた錦絵を紹介します。福神は古くからの民間信仰で、中世後期以降は「七福神」として7人の神が信仰されました。インドや中国の神に由来したり、それらの神と日本の神が習合したりしています。七福神は縁起が良いこと、めでたいことの象徴として、絵画や彫刻の題材とされたほか、七福神が祀られている神社へ参詣するなど、その信仰は江戸時代に広く普及しました。特に19世紀に入り錦絵が量産されるようになると、題材として福神が描かれ、家に飾られるなどして広く普及しました。

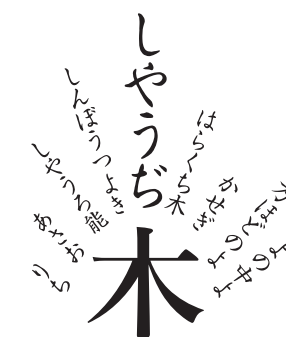




39  
**七福神 宝の参宮** The Seven Lucky Deities of Japanese folklore making a pilgrimage to Ise Shrine  
 歌川芳虎 Utagawa Yoshitora (作画期 (fl.) 1830-1887 頃) / 1863 36 × 75 900763

七福神の伊勢神宮（現三重県）への参詣を描いた作品。旅の供は福神の使いとされる動物を擬人化して描いている。先頭は釣り竿を持つ恵比須で、豊漁・豊作や商売繁盛の神。その隣の大黒天は福德や財宝の神で、鼠を使いとしている。駕籠に乗っている女性が弁才天で、音楽・財福・智徳の神。右で駕籠に乗る布袋は、中国の僧を聖人化した福德の神。鹿に乗るのが左から寿老人、毘沙門天、福祿寿で、鹿は寿老人の使いである。寿老人と福祿寿は福德・財運・長寿の神。毘沙門天は福德の神で、右端で荷物を担ぐ百足は毘沙門天の使い。中央の奥で、福祿寿の使いとされる亀と恵比須の供である鯛が「金のなる木」を運び、上空には長寿の象徴で福祿寿の使いともされる鶴が舞っている。

18世紀半ば頃から庶民の間でも伊勢参詣が広く行われるようになった。伊勢参詣が普及する中、縁起物として七福神の伊勢参詣が画題とされたものであろう。





40  
**福神 黄金の巻狩** The Seven Lucky Deities hunt sea bream, which are believed to bring good fortune  
 歌川芳虎 Utagawa Yoshitora (作画期 (fl.)1830-1887 頃) / 1865 35 × 74 900761

39「七福神 宝の参宮」と同じ芳虎による七福神を描いた作品。七福神が狩りを行い中央で恵比須が鯛を仕留めている。恵比須は豊漁をもたらす神として信仰され、鯛と共に描かれることが多い。通常、恵比須は釣り竿を持っているがこの作品では代わりに弓を持っている。その他の縁起物として、背景に富士山と葉が小判でできている松の木、福神の使いである鶴、亀、鼠、鹿も描かれている。「巻狩」は、四方から動物を囲んで追い詰めて仕留める狩りで、古くは武士の軍事訓練と遊興を兼ねて行われた。1193年に將軍源頼朝により富士山の裾野で行われた巻狩は有名。



41  
**讃州象頭山真景** Two of the Lucky Gods pray for a safe voyage at Kotohira Shrine  
 作者不詳 Artist Unknown / 1829年頃 around 1829 26 × 38 901113

大黒天と恵比須が象頭山中腹に鎮座する金刀比羅宮（現香川県）へ参詣する様子を描いている。金刀比羅宮は古くから海上安全の守護神として信仰され、江戸時代に全国的に航路が発展すると、全国の航海者や漁民などから信仰を集めた。一生に一度の大旅行として伊勢神宮と金刀比羅宮へ併せて参詣する人もいた。恵比須は、海の神として釣り竿と魚籠を腰に括り、金刀比羅宮に奉納する絵馬を持っている。右側遠方に描かれているのは丸亀城（同、重要文化財）である。



42  
千代乃寿 目出度づくし Scenes from various stages of life  
落合芳幾 Ochiai Yoshiku (1833-1904) / 1858 36 × 72 900756

人生や生活上の吉事などの6つの場面を、鶴・梅・松などの形の中に描いている。右から上段が婚礼、棟上、初春、下段が安産、七五三の祝い、富貴繁栄の場面である。富貴繁栄の場面では積み上げられた千両箱の上で帳面をつける大黒天と恵比須を中心とし、米俵・小判が描かれている。



43  
四海波 福の神あそび Two gods of prosperity fishing up gold coins  
池田英泉 Ikeda Eisen (1791-1848) / 19世紀前半 early 19th century 38 × 25 900833

四方の海が穏やかな中、大黒天・恵比須が漁に出て、網に大量の小判がかかる様子が描かれ、その様子が謡曲「高砂」の一節の表現を変え「四海なみ静けき福の神あそび かがねもあみにかかる目出たさ」と詠まれている。絵師の池田英泉は、最初日本画の最大の画派である狩野派に学んだが、後に浮世絵に転じた。英泉は文献の執筆も行い、浮世絵の絵師や作風に関する著作は、現在でも浮世絵に関する基本的な文献として評価が高い。



44  
**奥州松島風景 福神丸** Two gods in the Matsushima Islands carry chests filled with gold coins  
 歌川国芳 Utagawa Kuniyoshi (1797-1861) / 19世紀前半 early 19th century 35 × 25 901025

松島（現宮城県）の風景を、千両箱を抱え「福神丸」に乗り込む大黒天と恵比須、小判、米俵などと共に描いている。松島は松島湾に浮かぶ260以上の島々、松に覆われた奇岩、島にある中世以来の寺院などが一体となった自然景観が美しい地で、江戸時代より日本三景の1つとして知られるようになった。



45  
**福神 蚕の糸取** A god of good fortune and women, spinning silkworm cocoons into thread  
 松浦守義 Matsuura Moriyoshi (1824-1886) / 19世紀後半 late 19th century 22 × 15 900894

養蚕の様子が大黒天と共に描かれ、床には小判が散らばっている。手前の左の女性が持っているのは蚕卵紙。1840～1850年代にかけてヨーロッパで蚕病が流行し、蚕卵紙は幕末～明治時代初期にかけ日本の重要輸出品の一つとなった。奥では女性が生糸を取っている。当時、養蚕が富をもたらしており帳簿を前にした福神が小判と共に描かれたのであろう。この作品は富山の売薬商人が得意先に景品として配った売薬版画で、小型の作品は無料で配られた。松浦守義は富山の絵師で富山藩にも仕えたが、幕末から明治にかけて、売薬版画を手掛けた。売薬版画は、江戸の錦絵のデザインを取り入れ、江戸の文化を地方に広げる役割も果たした。



46

七福神宝の入船 The Seven Lucky Deities sail on their treasure ship  
 三代歌川広重 Utagawa Hiroshige III (1842-1894) / 1878 35 × 73 900771

恵比須を中心に七福神を乗せた龍のデザインの宝船が、鶴・亀・富士山など縁起の良いものと共に描かれている。正月に宝船の絵を枕の下に敷いて眠ると良い初夢を見て、新年の運が開けると信じられていた。このため、正月には欠かせない絵とされ、江戸・明治時代は宝船売りが年末から元日の江戸（東京）の町を声をあげて売り歩いた。また宝船絵には上部に回文の和歌「なかきよの とをのねむ（ふ）りの みなめさめ なみのりふねの をとのよきかな」が記された。

## 主要参考文献

- 原色浮世絵大百科事典編集委員会編『原色浮世絵大百科事典』第2巻、大修館書店、1982年  
 『国史大辞典』『新版 歌舞伎事典』  
 国文学研究資料館『図説「見立」と「やつし」 日本文化の表現技法』八木書店、2008年  
 造幣局『造幣局のあゆみ』2010年  
 平木浮世絵財団『平木浮世絵文庫（1）歌川国芳 木曾街道六十九次』2010年  
 早稲田大学演劇博物館 浮世絵閲覧システム（2017年8月現在 <http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/enpakunishik/>）  
 国文学研究資料館 日本実業史博物館コレクションデータベース（2017年8月現在 <http://base1.nijl.ac.jp/~jituhaku/>）  
 国立歴史民俗博物館画像データベース（2017年8月現在 [https://www.rekihaku.ac.jp/education\\_research/gallery/imgdb/index.html](https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/imgdb/index.html)）  
 坂口由之「広告メディアとしての歌舞伎・錦絵・草双子」（『AD STUDIES』19、2007年）  
 藤澤茜「豊国と黙阿弥の意図 『豊国漫画図絵』から「青砥稿花紅彩画」へ」（『浮世絵芸術』154、2007年）  
 古屋貴子「明治初期の視覚教育メディアに関する考察」（『生涯学習・社会教育学研究』31、2006年）  
 山本野理子「歌川広重の風景版画における革新性：江戸名所絵を中心に」（『関西学院大学人文論究』53(4)、2004年）

## 協力

海外への資料の貸出にあたり、作品の搬送事務等についてご教示いただきました皆様に深く御礼申し上げます。  
 東京国立博物館、三井記念美術館、早稲田大学演劇博物館

日本銀行金融研究所貨幣博物館 企画展

19世紀日本の風景：錦絵にみる経済と世相 - 米国 FRB 美術品展示会より -

Japan's Social & Economic Landscape: 19th-Century Woodblock Prints

日本銀行金融研究所貨幣博物館 Currency Museum, Institute for Monetary and Economic Studies, Bank of Japan

103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-1

発行日 2017年10月14日

編集・企画 関口かをり・倉林重幸・湯川紅美



日本銀行金融研究所

貨幣博物館

CURRENCY MUSEUM